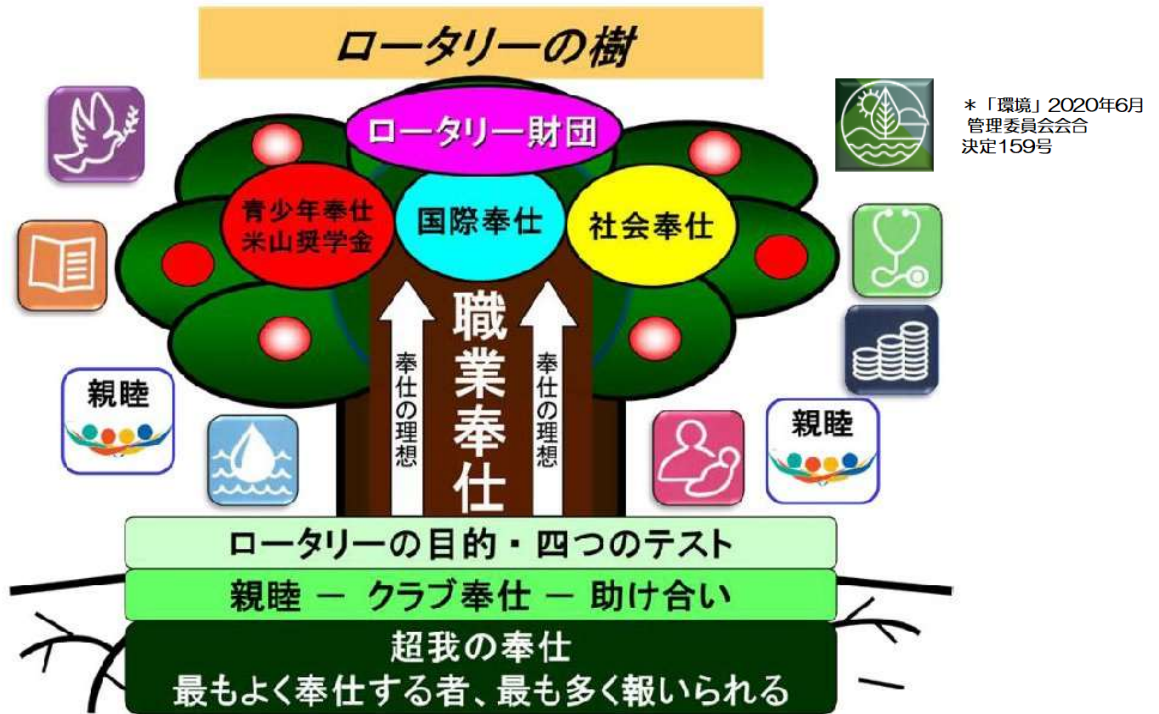


職業奉仕あれこれ –その3–

「ロータリーの樹」



※『ロータリーの樹・2008』を一部修正いたしております。

上の図は「ロータリーの樹」と呼ばれているもので、ロータリーの職業奉仕を理解する上で最も良い資料とされているものです。

これは、2008年 RI 国際協議会の全体会議において、渡辺好政 RI 理事が「ロータリーの樹・2008」と銘打ってロータリーを「一本の樹」に例えて、ロータリーの奉仕活動における職業奉仕の位置づけを行いながら、「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」の講演を行った時のものを一部修正し、シカゴにおいて開催された「2013年 RI 規定審議会」の審議を経て採択されたものです。

以下は渡辺好政元 RI 理事の説明です。

「1905年、ポール・ハリスら4名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに親睦、助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る根はクラブ奉仕であります。ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いをはせ、相手を助けるという奉仕の理想を学び、その真意が共存共栄であることがわかります。ロータリーの目的を基本とし、ハーバート・テラーによって実証され、ロータリアンの行動規範である『四つのテスト』による奉仕活

動の実際を体得することによって、ロータリアンに進化してまいります。ロータリークラブ会員からロータリアンに進化して行く過程の基盤には、『超我の奉仕』とアーサー・フレデリック・シルドンの提唱した『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを1枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは理念の高唱に終わるのではなく行動の哲学なのであります。」

渡辺氏は、この説明の中でロータリーの基本理念である「奉仕の理想（現在は奉仕の理念に変更 Ideal of service）」を実践する手段が職業奉仕であることをわかりやすく説明されています。

このロータリーの樹を「奉仕」という視点から見ますと、クラブ奉仕はロータリーの樹に水と栄養を送る「根」であり、職業奉仕はその上に成長する「幹」です。根から吸収された「水」と「栄養」はロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、幹の中にある「奉仕の理念」という導管を通して「社会奉仕」、「国際奉仕」、「青少年奉仕」という枝や葉に届き、そして「ロータリー財団」や「米山奨学会」という花を咲かせ、多くの「実」を結びます。

職業奉仕の活動とは、樹の幹を太くすることです。幹が太くならなければたくさんの花や実を育てることはできません。

根幹をなす職業奉仕の重要性がこの図からもよく理解できるものと思います。

以上